



湛水流伝統保存会

第29回

定期演奏会

〈祖慶剛顕彰〉

日時：2017(平成29年)3月19日(日)

午後2時開演

場所：首里公民館

主催：湛水流伝統保存会

入場無料



協力／啓扇本流船乃会、阿波連本流啓扇文幸の会、王府おもろ謡る保存会
首里王府路地楽御座楽保存会、首里クエー十保存会
後援／首里伝統芸能文化協会、首里公民館

演目及び出演者

《第1部》

1. 湛水流齊唱 「暁節」

[歌・三線]

上里平三 渡久山春 憲 國吉清 昂 松田邦昭 山城明
比嘉徳次 長嶺三 生 國吉啓 介 宮城康 明 山玉城 秀 治
仲里康雄 大田守 昭 友寄恵美子 小畑香代 久手堅 弘 子
吉浜秀彦 伊佐幸 子 堀内加奈子 小畑香代 山崎 麻里緒
謝敷 アンヘル (順不同)

[箏]

野里葉子 宮城泰子 宮城裕子 渡久山美智子 米須好子
具志堅孝子 高江洲初子 高江洲順子 神谷淳子 仲村渠道子
牧港和子 宮城敬子 (順不同)

[笛]

仲田治巳 石嶺 哲 知念 栄 [胡弓] 比嘉 清

2. 王府おもろ 「おしかけ節・しよりえと節」

王府おもろふきゆる保存会

安仁屋眞昭 大城康彦 与儀清春 与那嶺政則 徳元将己
與古田哲雄 浜川通 兼城雅彦 山城勝彦 桃原賢治
宮城憲治 (順不同)

3. 湛水流舞踊 「首里」

阿波連本流啓扇文幸の会 金城文子研究所

[踊り手]

[歌・三線]

宮城めり子 渡久山春 憲 宮城康明 比嘉徳次 國吉啓介

[箏]

[笛]

[胡弓]

渡久山美智子 石嶺 哲 比嘉 清

4. クェーナ 「アガリユウ・うりずんグェーナ」

首里クェーナ保存会

玉城弥生 嘉数明美 玉城 幸 仲田かよ子 平良千代子
伊佐幸子 新城園子

休憩 (10分)

《第2部》

5. 御座楽 「太平歌・萬年歓」「田園春色・紗窓外」

首里王府路地楽御座楽保存会

[鼓]

[排簫]

[笛]

[三味線]

[楊琴]

喜屋武卓八

新崎盛隆

福地好美

大城徹雄

眞榮平るみ子

[箏]

[両班]

[胡弓]

[二胡]

[新心]

中本きよみ

平良栄子

祖慶良規

神谷義則

阿波連本紀

[中三線]

[阮]

[奏琴]

[三線]

[銅鑼]

金城和郎

渡久地 一

砂川智規

儀武千夏

安慶名正照

(順不同)

6. 斉 唱 「木綿花節・南謝門節」

[歌・三線]

上里平三 渡久山春 憲 國吉清昂 松田邦昭 山城明
 比嘉徳次 長嶺三 生 國吉啓介 宮城康明 玉城秀 治子
 仲里康雄 大田守 昭 友寄恵美子 小山城啓子 久手堅弘 子
 吉浜秀彦 小畑香代恵 山崎麻里緒 謝敷アンヘル (順不同)

[箏]

野里葉子 宮城泰子 宮城裕子 渡久山美智子 米須好子
 具志堅孝子 高江洲初子 高江洲順子 神谷淳子 仲村渠道子
 牧港和子 宮城敬子 (順不同)

[笛]

仲田治巳 [胡弓] 比嘉 清

7. 独 唱

① 「早作田節 (揚げ出し)」

[歌・三線] [箏]
 山崎麻里緒 牧港和子

② 「早作田節 (下げ出し)」

[歌・三線] [箏]
 堀内加奈子 宮城敬子

③ 「揚作田節 (揚げ出し)」

[歌・三線] [箏]
 吉浜秀彦 高江洲順子

④ 「揚作田節 (下げ出し)」

[歌・三線] [箏]
 大田守昭 仲村渠道子

8. 湛水流舞踊 「チャンナ」

踊り 啓扇本流船乃会 船越節子研究所

[踊り手]

船越かおる

[歌・三線]

上里平三 松田邦昭 渡久山春 憲 國吉清昂 山城明

[箏]

玉城弥生

9. 湛水流斉唱 「諸鈍節」

[歌・三線]

上里平三 渡久山春 憲 國吉清昂 松田邦昭 山城明
 比嘉徳次 長嶺三 生 國吉啓介 宮城康明 玉城秀 治子
 仲里康雄 大田守 昭 友寄恵美子 小山城啓子 久手堅弘 子
 吉浜秀彦 伊佐幸子 堀内加奈子 小畑香代恵 山崎麻里緒
 謝敷アンヘル (順不同)

[箏]

野里葉子 宮城泰子 宮城裕子 玉城弥生 渡久山美智子
 米須好子 具志堅孝子 高江洲初子 高江洲順子 神谷淳子
 仲村渠道子 牧港和子 宮城敬子 (順不同)

[笛]

仲田治巳 [胡弓] 比嘉 清



ごあいさつ

湛水流伝統保存会
会長 國吉清昂

本日は湛水流伝統保存会 第29回定期演奏会へ足をお運び下さりありがとうございます。

湛水流は、湛水親方幸地賢忠1623～1683を祖とし、玉城朝薫代には全盛期を迎え、その後300年余衰退期があった。琉球王朝最後の尚泰王の時代に湛水流伝承者は名護良保一人になった。その消滅を憂えた尚泰王は山内盛熹外4名に命じ、名護良保に師事し、工工四の編纂を行うよう指示、欽定工工四を献上させた。その後山内盛熹以外は弟子を養成しなかった。

湛水流伝統保存会は、名護良保から山内盛熹、そして孫の山内盛彬に奏唱法を伝授、大正元年8月に伝授披露会を開催し、大正3年に声楽譜を採譜(洋楽譜にも並記)した。本会はその流れを汲む研究研鑽の団体です。山内盛熹の指導により、盛彬は松村真信が書き漏らしたものを(ナゴ)と追記、いわゆる(ナゴ手)として当会では受け継いでいる。

湛水流の特徴は、自然発声法で歌と三線が同時である。直線的で三線の技巧も多く、居し持ちの変化も多く、突コツとして、当流の円滑唱法に対して突コツ唱法と言われている。又、古楽の澆刺とした生氣ある楽曲として古来の民族性をよく表しているといわれています。

山内盛彬翁は世界を行脚しながら民族音楽研究に生涯を捧げたが、ブラジルから沖縄へ帰郷の途中、湛水流の行く末を案じ、1957年7月15日～8月16日まで横浜の平光雄氏に湛水流全曲を伝授、翌16日に沖縄へ帰郷、沖縄市の緑樹苑に止宿先を置きその後祖慶剛氏にも伝授を授けた。それより先の5月に福岡で安仁屋眞昭氏に王府おもろを伝授している。

昭和57年11月に自ら初代会長として祖慶剛、平光雄を中心に湛水流伝統保存会を立ち上げた。88歳のときである。

本日は、湛水流伝統保存会二代会長「祖慶剛師匠」の顕彰公演として行われます。祖慶師匠は湛水流を山内盛彬翁から学び湛水流の研究と洋楽譜の様式を取り入れた五線譜工工四を発案しました。現在は、学校教育で洋楽を学んでいるので学びやすいという利点があります。祖慶師匠は優れた教育者として、また、湛水流の研究と継承発展に多大な足跡を残してきました。

本公演は、王朝礼楽《王府おもろ・キューナ・御座楽》や啓扇本流船乃会、阿波連本流啓扇文幸の会のご協力を得、湛水流伝統保存会では若手の育成をテーマに独唱を課題として練習に取り組んできました。皆様、御拝聴の上ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

平成29年3月吉日

湛水流系譜

